

3. 1. 1 河川環境をとりまく状況

網走市は、知床や阿寒、大雪山の3つの国立公園に囲まれた網走国定公園の中心に位置しており、オホーツク海や網走川、濤沸湖等が織りなす水と緑の豊かな自然景観を有しています。

本整備箇所である網走湖下流の網走川の河川敷は散策やサイクリングなど市民の憩いの場となっています。さらに、河口部には、オホーツク・文化交流センターなど観光集客施設があり、「花火大会」「網走サマーイルミネーション」等のイベントが開催されるなど観光交流の場となっています。



(2) 地域の現状と課題

網走市は、地域資源を活かし網走観光の魅力をさらに高めるとともに、体験や滞在を楽しむ観光を推進し、観光客の拡充に努めています。

流氷観光砕氷船の発着や観光交流・レクリエーションの拠点となるみなと観光交流センターの整備や名物料理の開発など、多くの観光振興の取り組みが実施され、成果をあげてきています。

網走市の年間観光入込客数は、インバウンド客や流氷観光砕氷船「おーろら」の乗船者数の増加により、平成29年度には約162万人に達しました。令和2～3年度は新型コロナウイルス感染者拡大の影響により一時的に減少しましたが、令和4年度以降は回復傾向にあります。

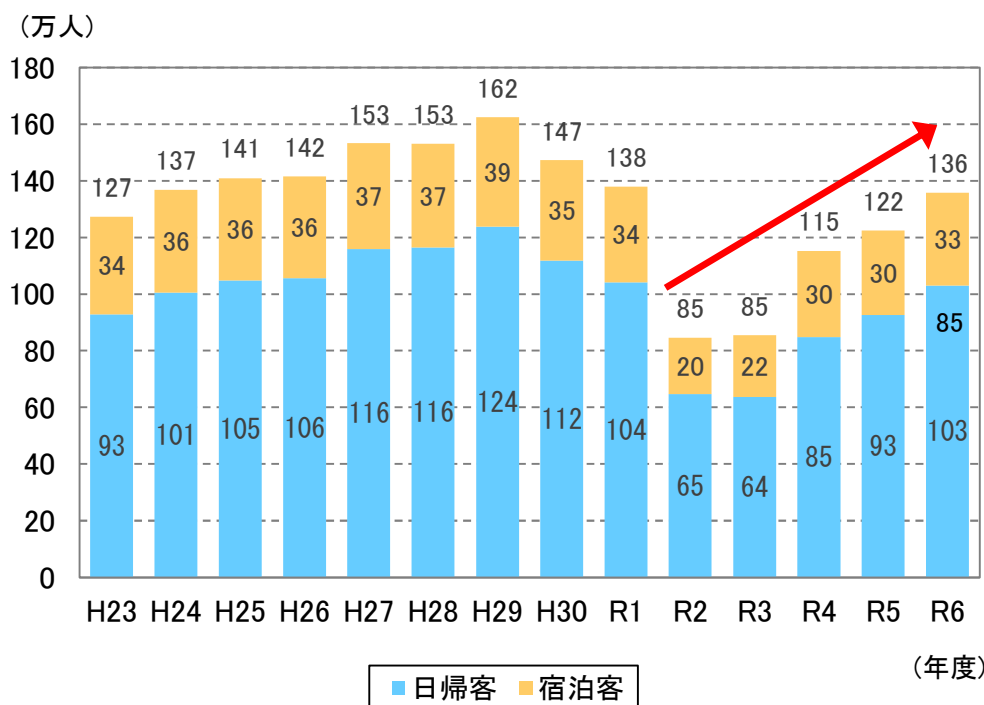


図 網走市の観光入込客数の推移

出典：北海道観光入込客数調査報告書

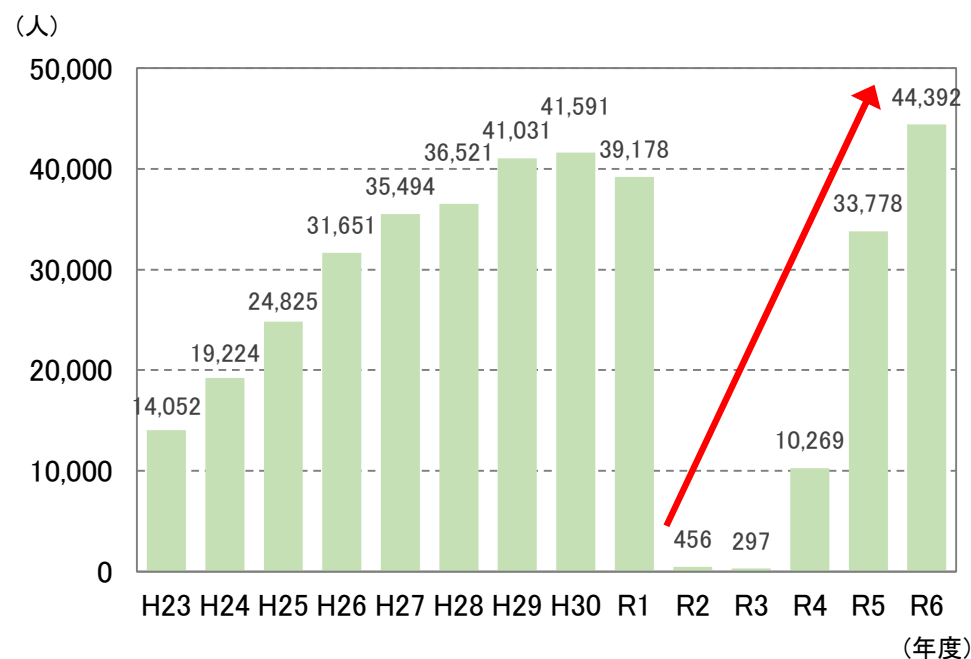


図 網走市の外国人宿泊者数の推移

出典：北海道観光入込客数調査報告書

注) 令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染者数の拡大を受けた外出自粛や休業要請、緊急事態宣言等の施策実施により、令和2年度以降の観光入込客数が大きく減少した。

(3) 事業箇所周辺地域の現状と課題

再評価

事業箇所周辺の沿江市街地には「みなと観光交流センター」などの観光交流施設が立地し、「網走サマーイルミネーション」などのイベントが開催される観光交流の場となっています。

また、網走川沿いの河川管理用道路(散策路)は、ウォーキング、ジョギング、サイクリングなどに利用され市民の憩いの場となっています。

一方、河川管理用道路は網走川を横架している橋の橋台で分断されていることから、動線の連続性の確保が課題となっています。また、網走川沿いの一部区間では階段護岸が整備されていますが、大きな段差があり、管理用道路等のバリアフリー化が必要となっています。



図 事業箇所周辺地域の状況



3. 1. 2 河川等の利用状況

再評価

事業箇所の河川敷は散策やサイクリングなどに利用されるなど市民の憩いの場となっています。さらに、川沿いには、オホーツク・文化交流センター、モヨロ貝塚館、みなと観光交流センターなど観光集客施設が立地するとともに、「あばしり道の駅タ市まつり」等のイベントが開催されるなど多くの市民や観光客が訪れる観光交流の場となっています。

【事業箇所の水辺利用状況】

釣り、散策等 ※1	6,000人/年
あばしり道の駅タ市まつり ※2	17,000人
花火大会(あばしりオホーツク夏まつり) ※2	56,500人
モヨロ貝塚館 ※2	10,622人/年
オホーツク・文化交流センター ※3	128,576人/年

出典：

※1) 「平成26年度 河川水辺の国等調査空間利用実態調査」(KP 0～5Km区間を推計)

※2) 「令和6年度版商工労働観光概要」(R5年度)

※3) 網走市教育委員会調べ(R3年度)

【イベント開催状況】



観光客数：56,500人(令和5年度)

写真 花火大会
(あばしりオホーツク夏まつり)



観光客数：17,000人(令和5年度)

写真 道の駅タ市まつり



写真 あばしりオホーツク夏まつり

【市民の利用状況】



写真 網走川沿いの散策



写真 水辺プラザでの親水利用

【水辺の観光・交流施設】



写真 水辺プラザ



入場者数：128,576人(令和3年度)

写真 オホーツク・文化交流センター
(エコセンター2000)



観光客数：10,622人(令和5年度)

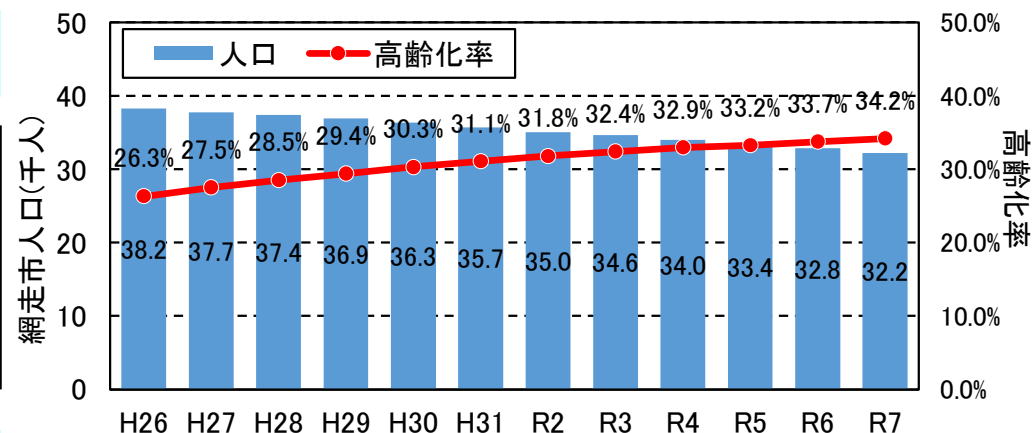
写真 モヨロ貝塚館



写真 みなと観光交流センター
(道の駅「流水街道網走」)

3. 1. 3 地域開発の状況

網走市の人口は、約3.2万人（令和7年）で減少傾向にあり、少子高齢化の影響で65歳以上の高齢化率は増加傾向にあります。



再評価

3. 1. 4 地域の協力体制

流域市町村を主体とした「オホーツク圏活性化期成会」から、環境整備事業の推進が要望されています。

網走市では、網走市、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する意見交換会の場として「網走かわまちづくり検討会」を設置し、かわとまちが一体となった観光振興や親水空間創出の具体化を図る「網走かわまちづくり」計画を策定しています。この計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「網走かわまちづくり」として国土交通省に申請し平成28年3月28日に登録されました。

市民や地域のNPO等と河川管理者が連携しながら、河川愛護月間に合わせた網走川流域一斉清掃事業の一環である市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいます。



写真
地元小学生による清掃活動



写真
網走かわまちづくり検討会



写真
網走かわまちづくり検討会
(現地見学会)



写真 水生生物の観察会

網走市では、「網走市総合計画(2018～2027)」に基づき、「誰もが訪れたい、魅力ある観光のまち」を目指し、交通アクセスの円滑化による観光客の利便性向上や多様な関係者との連携による新たな観光地域づくり等を推進しています。

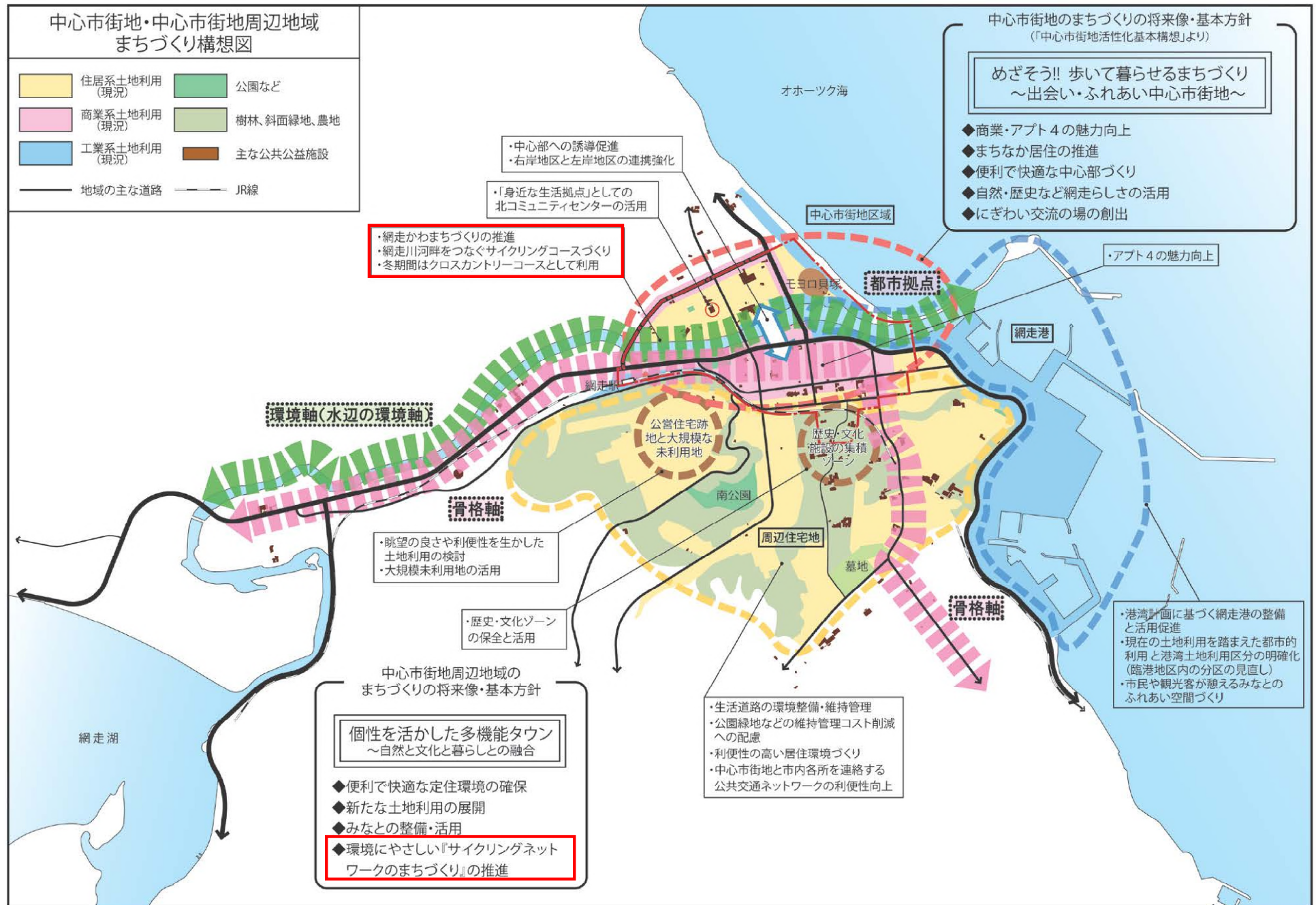
また、「網走市都市計画マスタープラン」に基づき、環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」を目指して、網走川沿いのサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を推進しています。

平成31年3月には「網走市観光振興計画 2019」を策定し、網走の持つ豊かな地域資源や地域特性を活かした観光振興を目指し、網走かわまちづくりと連動した散策コースのPR等を推進しています。

＜「網走市観光振興計画2019」における主な施策＞

項目	内容
背景	観光客の誘致のためには、地域の観光資源、食の優位性、自然や歴史・文化など、地域の魅力を最大限に活用した展開が必要となります。
施策の概要	網走市は、流氷というオホーツク地域以外にはないオンリーワンの観光資源を有しています。他にも優れた農業景観や遠くに知床連山を望む美しい海岸線が眺望できる丘など、多くの資源があります。それらの魅力ある素材をさらに磨き上げし、分野やエリアごとの観光客誘致の取組に活かしていきます。
施策の方向性	①自然・歴史・文化・食等の分野ごとに、インパクトとポテンシャルを追求した観光素材のブラッシュアップおよびコンテンツ開発【商工団体・民間事業者】 網走のもつ魅力をよりインパクトを持って打ち出すために、多様な主体が連携して自然・歴史・文化・食等の豊富な魅力を発揮できるポテンシャルを持った素材の磨き上げと開発を行います。
	②天都山エリアの面的魅力アップに向けた整備【民間事業者】 天都山展望台・オホーツク流氷館や博物館網走監獄、北方民族博物館など、網走の主要な観光資源が集まる天都山エリアの面的な魅力を向上させるための取組を行い、市民にも観光客にも魅力あるゾーン形成を進めます。
	③網走かわまちづくり構想と連動した街並み散策コースのPR【商工団体】 市民生活の中心となっている網走川周辺の美しい自然景観と網走市の街並みを、観光客が好みに応じて気軽に楽しめるよう、PRに努めます。

<「網走市都市計画マスタープラン」におけるまちづくり構想>



3. 2 事業概要及び進捗状況

(1) 事業の河川整備計画等の位置づけ

平成27年9月に策定した網走川水系河川整備計画では、河川空間の利用について以下の記載があります。

【河川環境の整備と保全に関する目標】

- ・ 河川空間の利用については、良好な河川環境を保全しつつ、地域のニーズを踏まえ、多くの人々が川に親しめる空間となるよう、関係機関や地域住民と一体となった取り組みに努める。

【河川環境の整備と保全に関する事項】

- ・ 河川空間の整備にあたっては、河川環境管理基本計画をふまえ、生活の基礎や歴史、文化や風土を形成してきた網走川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、釣りなどの趣味、イベントなどの河川利用、環境学習の場などとして安全に活用できるよう、地域の活性化に寄与する場の整備に努める。その際、沿川の自治体の河川に関連する取り組みや地域計画等との連携・調整を図り、河川利用に関する多様なニーズを十分反映した河川整備に努める。

(2) 事業の目的と経緯

本事業は、かわとまちが一体となった観光振興や親水空間創出の具体化にあたって、「かわまちづくり」計画に基づき、市民と市、河川管理者が協働し、網走川沿いの賑わいを創出することで地域の活性化を目指すものです。

網走市では、網走市、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する意見交換会の場として「網走かわまちづくり検討会」を設置し、かわとまちが一体となった観光振興や親水空間創出の具体化を図る「網走かわまちづくり」計画を策定しています。この計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「網走かわまちづくり」として国土交通省に申請し平成28年3月28日に登録されました。

(3) 施設整備の方針と内容

方針	整備内容名	内容、期待される効果
網走川沿いの上下流のアクセス確保	河川管理用道路（ボックスカルバート）の整備	網走川を横架している橋の橋台で分断されている管理用道路の分断箇所を、ボックスカルバートにより連絡し、網走川河口から大曲湖畔園地に至る動線を確保することにより、安全な水辺へのアクセス向上を図ります。
河川管理用道路のバリアフリー化	取付道路の整備	階段護岸の箇所に取付道路を整備し、高齢者や障害者等が安全に利用できるようバリアフリー化を行い、網走川沿いの親水性向上を図ります。
利用者の利便性の向上	案内看板、街灯、照明設備の設置	国内外からの観光客が、見知らぬ土地でも安心して利用できるよう、周辺地図や主要な観光スポット、モデルコース等が記載された看板を設置します。海外からの観光客も想定し、外国語表記も取り入れます。また、夜間なども安全に利用できるよう街灯やボックスカルバート内の照明を設置します。



図 事業区域の整備内容

(4) 具体的な整備イメージ

再評価

<河川管理用道路(ボックスカルバート)の整備>

- ・網走川を横架している橋の橋台で分断されている管理用道路の分断箇所を、ボックスカルバートにより連絡し、網走川河口から大曲湖畔園地に至る動線を確保します。

整備前



水辺の通路は橋で行止りになっています。



水辺の通路は分断されており、川沿いの施設間の移動は、迂回する必要があります。

整備後



行止り箇所が解消され、網走川河口から大曲湖畔園地までの通路で、水辺のサイクリングやウォーキングが可能になります。



川沿いの施設は、水辺の通路で連絡され、迂回する必要もなく、快適、便利に移動できます。

<取付道路の整備>

- ・階段護岸の箇所に取付道路を整備し、高齢者や障害者等が安全に利用できるようバリアフリー化を行い、網走川沿いの親水性向上を図ります。

整備前



大きな段差があり、水辺に近づきにくく、自転車や車椅子の通行が困難になっています。

整備後



大きな段差がなくなることで、車椅子や自転車が通行でき、誰もが容易に水辺に近づけるようになります。

<案内看板等の設置>

- ・周辺地図や主要な観光スポット、モデルコース等が記載された看板の設置により、国内外からの観光客が、見知らぬ土地でも安心して利用できるようになります。
- ・街灯や橋の下のトンネル内の照明により、いつでも、安心して安全に利用できるようになります。

【案内看板の設置例】

<案内看板(現在地及びモデルコース)>



<案内看板
(施設距離標)>



3. 3 事業の進捗の見込み

3. 3. 2 今後の事業スケジュール

網走かわまちづくりについては、平成29年度から事業を実施中です。

直轄事業費約4. 9億円※のうち、令和7年度末時点で約4. 8億円の事業を実施しており、事業の進捗率は約99%です。

※その他費用として、自治体事業費約0. 2億円を含め、総事業費は約5. 1億円です。

令和8年度以降の残事業

【国】 : モニタリング

上記事業については引き続き、網走市をはじめ地域の方々や関係機関と連携・調整を図りながら計画的に実施します。

表 事業の進捗状況

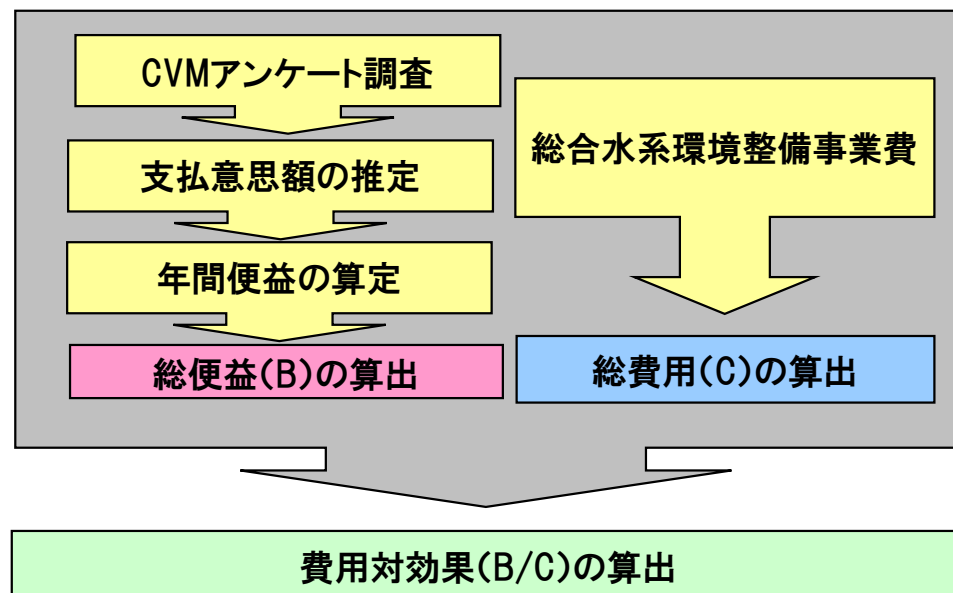
実施者	工 種	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)
網走市	案内看板・街灯 ・トンネル内照明	検討・設計 ←→			整備(工事)								
	河川管理用道路・取付道路	検討・設計 ←→			整備(工事)								
河川 管理者	モニタリング								■	■	■	■	■

4. 事業の投資効果

新規箇所

4.1 網走湖呼人地区かわまちづくり：《水辺整備》

本整備箇所期待される、網走湖呼人地区かわまちづくりの効果を、CVM(仮想的市場評価法)を用いて評価しました。



●住民アンケート

対象地域：整備箇所30km圏内（網走市、大空町、美幌町、小清水町、北見市、佐呂間町）
質問内容：網走湖呼人地区かわまちづくりに負担できる金額
調査時期：令和7年6月～7月
配布部数：1,600部
抽出方法：住民基本台帳により抽出した世帯に対して郵送アンケートを実施
回収方法：郵送配布、郵送回収（無記名方式）
回収数：532票（回収率33.3%）
支払意思額：6,132円/世帯/年（511円/世帯/月）
世帯数：34,520世帯（令和2年国勢調査の250mメッシュ人口・世帯を用いて、事業箇所30km圏内のみに限定）

●観光客アンケート

対象地域：網走市内主要観光施設（道の駅流氷街道網走、オホーツク流氷館）
質問内容：網走湖呼人地区かわまちづくりに負担できる金額
調査時期：令和7年6月
調査方法：面接方式
回収数：日帰客：697票（CVM調査）
支払意思額：650円/人/日（日帰客）
観光客数：333,158人/年（日帰客、令和2年度～令和6年度の日帰客数※）
※非積雪期である5～10月のみとし、成年比率、来訪比率、訪問意欲率等により補正

網走湖呼人地区かわまちづくり：《水辺整備》

費用対効果分析(全体事業)

●算出の条件

評価基準年度：令和7年度

整備期間：令和8年～令和17年(10年間)

評価対象期間：令和8年～令和67年(整備期間+50年間)

総便益 (B)	便益	62億円
	残存価値	0.07億円
		62億円
総費用 (C)	建設費	6億円
	維持管理費	0.2億円
		6億円
費用対効果 (B/C)		10.4
純現在価値(B-C)		56億円
経済的内部収益率(EIRR)		20.4%

●感度分析

全体事業	基本	残事業費		残工期		資産	
		-10%	+10%	-10%	+10%	-10%	+10%
費用対効果 (B/C)	10.4	11.5	9.5	10.7	10.2	9.4	11.5

4.2 網走かわまちづくり：《水辺整備》

事業目的に変更が無いなどの費用対効果分析判定の結果から、令和7年度は、費用対効果分析を実施しないものとしました。

費用対効果分析実施判定票

年 度： 令和7年度	事 業 名： 網走川総合水系環境整備事業(網走かわまちづくり)
担当課： 河川工事課	担当課長名： 武井 正明

※各事業において全ての項目に該当する場合には、費用対効果分析を実施しないことができる。

項 目	判 定	
	判断根拠	チェック欄
(ア) 前回評価時において実施した費用対効果分析の要因に変化が見られない場合		
事業目的		
・事業目的に変更がない	事業目的に変更がない	■
外的要因		
・事業を巡る社会経済情勢の変化がない	地元情勢等の変化がない。	■
内的要因＜費用便益分析関係＞		
1. 費用便益分析マニュアルの変更がない	B/C 算定方法に変更がない。	■
2. 需要量等の変更がない	需要量等の減少が10%以内	■
3. 事業費の変化	【事業費の増加が10%以内】 事業費の変化がない	■
4. 事業展開の変化	事業期間に変化がない	■
(イ) 費用対効果分析を実施することが効率的でないと判断できる場合		
・事業規模に比して費用対効果分析に要する費用が大きい または、前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている。	■ 前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている 前回評価時：20.8 ≧ 基準値(1.0)	■
前回評価で費用対効果分析を実施している	前回実施 令和6年度：B/C = 23.5	■
以上より、費用対効果分析を実施しないものとする。		

網走川総合水系環境整備事業の各地区の費用対効果は、効果が費用を上回っています。

◆水系全体の全体事業

	箇所	着手年度	完了年度	事業区分	総費用、総便益(現在価値化後)		B / C	備考
					B (億円)	C (億円)		
1	網走湖呼人地区 かわまちづくり	R8	R17	水辺整備	62	6	10.4	令和7年度基準
2	網走かわまちづくり	H29	R10	水辺整備	145	7	19.3	令和6年度基準
網走川総合水系環境整備事業					213	12	17.5	令和7年度基準

純現在価値 (B-C) = 201億円 経済的内部収益率 (EIRR) = 24.0%

●《参考》比較結果 (社会的割引率)

費用対効果 (B/C)	社会的割引率1%	社会的割引率2%
	34.5	27.0

●感度分析

全体事業	基本	残事業費		残工期		資産	
		-10%	+10%	-10%	+10%	-10%	+10%
費用対効果 (B/C)	17.5	18.4	16.7	17.6	17.4	15.7	19.2

◆水系全体の残事業

	箇所	着手年度	完了年度	事業区分	総費用、総便益(現在価値化後)		B / C	備考
					B (億円)	C (億円)		
1	網走湖呼人地区 かわまちづくり	R8	R17	水辺整備	62	6	10.4	令和7年度基準
2	網走かわまちづくり	H29	R10	水辺整備	11	0.5	23.5	令和6年度基準
網走川総合水系環境整備事業					64	6	10.6	令和7年度基準

純現在価値 (B-C) = 65億円 ※経済的内部収益率 (EIRR) = 23.6%

●感度分析

残事業	基本	残事業費		残工期		資産	
		-10%	+10%	-10%	+10%	-10%	+10%
費用対効果 (B/C)	10.6	11.7	9.6	10.8	10.3	9.5	11.6

5. コスト縮減や代替案立案等の可能性

新規箇所

再評価

5. 1 代替案の可能性の検討

網走湖呼人地区かわまちづくり： 《水辺整備》

網走湖呼人地区かわまちづくりは、計画立案段階から、網走市、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する「網走かわまちづくり検討会」(現在は「網走ウォーターフロント協議会」に名称変更)において議論を重ねており、現計画が最適です。

網走かわまちづくり： 《水辺整備》

網走かわまちづくりは、計画立案段階から、網走市、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する「網走かわまちづくり検討会」(現在は「網走ウォーターフロント協議会」に名称変更)で議論を重ねており、また、ハード整備が既に完了していることから、現計画が最適です。

5. 2 コスト縮減の方策

呼人地区かわまちづくり： 《水辺整備》

今後、実施設計段階において、具体的なコスト縮減対策について検討します。

網走かわまちづくり： 《水辺整備》

近接構造物への影響が最小となるボックスカルバートの位置設定や施工に係る新技術の活用による工事期間の短縮などにより、全体事業費約13.5百万円のコスト縮減を図りました。

6. 地方公共団体等の意見

新規箇所

再評価

◆北海道の意見

「網走川総合水系環境整備事業」を「継続」とした「対応方針(原案)」案について、異議はありません。

当該事業は、市と連携して水辺整備を行うことにより、地域の活性化に寄与することなどから、地域の要望を踏まえ、早期完成を図るようお願いいたします。

なお、事業の実施に当たっては、徹底したコスト縮減を図り、効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。

7. 対応方針（案）

新規箇所

再評価

事業再評価については、社会情勢の急激な変化等により再評価の必要が生じたため、以下の3つの視点で再評価を行いました。

①事業の必要性等に関する視点

- ・網走湖呼人地区かわまちづくり、網走かわまちづくりについては、網走市のまちづくりと一体となった河川整備を実施し、地域資源の有効活用や地域活性化を目指します。

②事業進捗の見込みの視点

- ・網走湖呼人地区かわまちづくり、網走かわまちづくりは、流域の地方公共団体等からは事業推進に強い要望があり、今後、地域住民や関係機関と連携し、整備を進めていきます。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・網走湖呼人地区かわまちづくりについては、今後、実施設計段階において、具体的なコスト縮減対策について検討します。
- ・網走かわまちづくりについては、近接構造物への影響が最小となるボックスカルバートの位置設定や施工に係る新技術の活用による工事期間の短縮などにより、全体事業費約13.5百万円のコスト縮減を図りました。
- ・また、代替案の可能性については、計画立案段階から、有識者や関係機関等からなる協議会等において議論を重ねており、現計画が最適であると考えます。

以上より、事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案としてお諮りいたします。